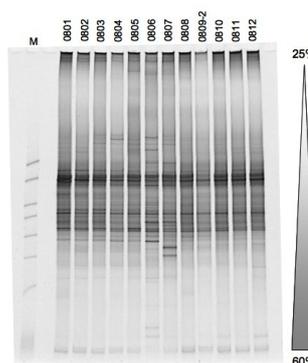


I. 放射性同位元素教育研究グループ

生命科学や物質科学の研究分野において放射性同位元素および放射線を用いた基礎・応用研究を推進するための支援を担当している。このために必要となる、法令に基づいた放射線の安全取扱いについての教育を定期的に行うとともに、学内の放射線施設である放射光科学研究センターや、全国共同利用施設である SPring-8 などの利用者のための放射線業務従事者登録を行っている。当部は生物、化学、地学、物理分野にわたり、ゲノム解析、生体機能解析、標識化合物の利用、環境関連研究、福島支援、メスバウアー分光、放射線の物理的、工学的応用などの研究支援のために最新機器を備えている。また環境放射能調査における生物学的解析を行っている。



教育訓練実習



環境水中の微生物の D G G E 解析

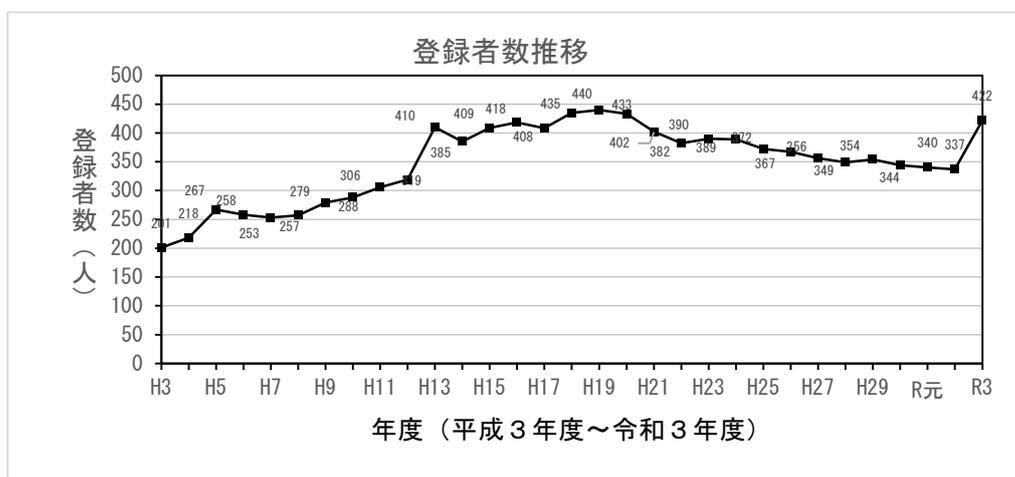
I-1. 施設の利用状況

【R I 施設の利用状況】

放射線を利用するには、法律に基づいて管理された施設（管理区域）で使用することが義務づけられている。当部では全学の希望者に対し放射性同位元素を使用するための実験スペースの提供や研究推進のために各種解析装置の導入、組換え DNA 実験が可能な実験室、動物飼養設備を整備し、これらの保守や定期自主検査への対応などその維持・管理に努めている。この他に放射線測定器の貸出しや RI 利用に関する問い合わせに教職員が対応するなど、RI 研究の支援全般を行っている。

令和 2 年度の登録・施設利用状況は以下のとおりである。

登録者数の推移



【利用申請者と研究テーマ】

当部施設利用者

利用申請者	研究テーマ	利用者数
統合生命科学研究科		
菊池 裕	ゼブラフィッシュ dnmt3aa 変異体を用いた DNA メチル化機構の解明	1
濱生 こずえ	ヒト疾患における細胞骨格制御の機構解明	1
高橋 陽介	植物伸長生長制御機構/植物の環境応答制御機構	7
鈴木 克周	超生物界間 DNA 輸送系の研究	1
泉 俊輔	フラグメントイオン解析	1
山本 卓	ウニ初期胚における遺伝子発現調節機構の研究	2
坂本 敦	形質転換植物の分子形質発現解析	3
津田 雅貴	DNA 損傷修復機構の解明	5
片柳 克夫	蛋白質の X 線構造解析	4
黒田 章夫	微生物のリン代謝機構の解明	1
荒川 賢治	放線菌の二次代謝制御機構および放射線感受性に関する研究	3
水沼 正樹	真核生物の細胞形態形成および寿命制御機構に関する研究	2
矢中 規之	栄養素コリンの機能性に関する研究	1
船戸 耕一	脂質代謝に関する研究	4
富永 淳	Rubisco 活性測定	1
石田 敦彦	CaM キナーゼの生化学的研究	1
山崎 岳	ステロイドホルモンの生合成とその機能	1
統合生命科学研究科 附属植物遺伝子保管実験施設		
草場 信	高等植物の分子遺伝学的研究	3
両生類研究センター		
鈴木 厚	初期発生の分子機構	2
古野 伸明	卵形性、四肢形成の機構	1
三浦 郁夫	両生類の性決定と系統進化	1
高瀬 稔	両生類の生殖や応用に関する研究	1
自然科学研究支援開発センター (リーディングプログラム)		
中島 覚	環境放射能	5
人間社会科学研究科		
奥村 晃史	放射性炭素同位体年代測定	1
先進理工系科学研究科		
梶本 剛	学外利用およびストロンチウム測定	3
金田一 智規	MAR-FISH 法を用いた環境微生物の機能解析	3
中井 智司	機能性高分子を用いた水中微量金属イオンの除去・回収	4
自然科学研究支援開発センター		
田中 伸和	遺伝子発現の調節研究	2
中島 覚	金属錯体の集積化によるスピン状態の制御、多核錯体の混合原子価状態	10
稲田 晋宣	微生物における金属元素の影響、環境放射能	1
松嶋 亮人	バイオマットによる放射性物質の吸着	1
理学部生物科学科		
津田 雅貴	ラジオアイソトープ取扱の講習と基本操作の実習	31

他施設利用者 () 内は、当部施設利用者数 (内数)

利用申請者	研究テーマ	利用者数
先進理工系科学研究科		
志垣 賢太	高エネルギー原子核衝突実験	4
深沢 泰司	高エネルギー宇宙・素粒子実験	25
黒岩 芳弘	放射光を用いた誘電体構造物性	12
木村 昭夫	放射光を用いた機能性物質の電子状態の研究	12
中島 伸夫	放射光を用いた電子物性研究	11
和田 真一	シンクロトロン放射光を用いた分子光科学反応の研究	11
西原 禎文	キラル磁性体/マルチフェロイクス化合物の構造と物性	19
高口 博志	レーザーおよび分子線実験による化学反応動力学	2
岡田 和正	放射光を用いた軟X線分子分光および光化学反応の研究	3
井口 佳哉	金薄膜上のランタノイド・マイナーアクチノイド錯イオンの構造決定	4
高橋 修	液体の軟X線分光測定	3
安東 淳一	岩石鉱物物性	1
大川 真紀雄	X線回折実験	1
佐藤 友子	超高压地球物理学	3
井上 徹	超高压地球科学	5
川添 貴章	地球内部物性	2
柿澤 翔	地球型惑星の進化過程の解明	1
宮原 正明	隕石に含まれる高压相の解明	2
白石 史人	STXMを用いた微生物・鉱物相互作用の研究	2
藪田 ひかる	地球惑星物質の放射光分析	6
小池 みずほ	隕石の同位体化学分析による、惑星表層進化の解明	4
松村 武	強相関電子系の物理	7
鬼丸 孝博	遷移金属酸化物及び希土類化合物の磁性と熱電物性	6
高橋 徹	加速器を用いた素粒子実験	6
岡本 宏己	ビーム物理・加速器物理の研究	3
野原 実	非従来型超伝導および高温超伝導を示す新物質開発	1
富永 依里子	GaAs系III-V族半導体の結晶成長およびデバイス応用に向けた結晶欠陥の評価	3
栗木 雅夫	粒子加速器の物理とその応用	5
梶原 行夫	液体およびガラスのX線散乱実験	1
長谷川 巧	放射光を利用した強相関電子系物質の電子・格子系物性の研究	2
戸田 昭彦	高分子のX線回折、散乱	5
田口 健	ソフトマテリアルの構造形成機構	1
乾 雅祝	液体金属のX線散乱実験	1
田中 晋平	X線散乱による界面活性剤系の物性測定	1
横山 正	岩石・鉱物の風化、岩石内部の物質移動	1
早川 慎二郎	放射線を用いる化学分析	5
大山 陽介	機能性色素化学に関する研究	2
犬山 啓	機能性無機材料の研究	3
津野地 直	無機酸化物の合成、構造解析、応用	4
尾坂 格	有機薄膜の結晶性評価	16
河崎 陸	BNCT用ホウ素薬剤の開発	3

Yuan Haobo	microstructure of cycloolefin copolymers	1
都留 稔了	高機能性分離膜の開発	1
萩 崇	ナノ構造粒子とその応用	3
難波 慎一	レーザープラズマ X線源に関する研究	5
梶本 剛	学外利用およびストロンチウム測定	7
鈴木 康浩	核融合科学研究所との共同研究	1
河合 研至	セメント硬化体の鉱物組成分析	1
畠 俊郎	XAFS による機能性地盤材料に関する研究	2
中下 慎也	沿岸環境修復に向けたアルカリ材の特性把握	2
三根生 晋	機能性樹脂複合材料の研究	2
田中 憲一	F3 棟の安全巡視のため	2
統合生命科学研究所		
津田 雅貴	DNA 損傷修復機構の解明	4 (4)
片柳 克夫	蛋白質の X 線構造解析	4 (4)
黒田 章夫	微生物のリン代謝制御機構の解明	1
堀内 浩幸	ゲノム編集家禽の作出研究	4
長沼 毅	放射線取扱主任者として	1
上野 聡	放射光 X 線回折法による油脂結晶化に伴う多形転移挙動のその場観察	15
川井 清司	生物材料のダイナミクスに関する研究	2
浅岡 聡	水圏の環境修復技術の開発	1
和崎 淳	植物のミネラル吸収と動態に関する研究	2
竹田 一彦	ガンマー線照射によるラジカルの発生	1
放射光科学研究センター		
島田 賢也	高電子分光による物性研究	20
宇宙科学センター		
川端 弘治	ガンマ線、X 線衛星の開発とブラックホール連星などの研究	1
自然科学研究支援開発センター		
梅尾 和則	低温高圧下における希土類化合物の磁性	1
齋藤 健一	機能ナノ構造体の創製とその光物性	6
宮岡 裕樹	エネルギー変換及び貯蔵材料等に関する基礎研究	7
ナノデバイス・デバイス融合科学研究所		
黒木 伸一郎	シリコンカーバイド極限環境エレクトロニクス・パワー半導体デバイス・薄膜シリコンデバイス	10
黒木 伸一郎	RBS 測定装置維持管理	3
寺本 章伸	半導体プロセスに関する研究	3
環境安全センター		
梅原 亮	オゾンナノバブルを用いた余剰汚泥削減	1

【当部の主な設置機器】

◆放射線測定・防護機器

Ge 半導体検出器 [※]	2 台
Si/Li 半導体検出器	1 台
2πガスフローカウンタ	1 台
低バック液体シンチレーションカウンタ	1 台
液体シンチレーションカウンタ	3 台
プレート用液体シンチレーションカウンタ	1 台
オートウェルカウンタ	2 台
ラビッドカウンタ	7 台
GM サーベイメータ (β線) [※]	36 台
GM サーベイメータ (β/γ線)	6 台
シンチレーションサーベイメータ [※]	15 台
電離箱式サーベイメータ	3 台
³ H/ ¹⁴ C サーベイメータ	1 台
¹²⁵ I 測定用シンチレーションサーベイメータ	1 台
可搬型デジタルスペクトロサーベイメータ	1 台
α/β線用シンチレーションサーベイメータ	1 台
ポケットサーベイメータ	5 台
ハンドフットクロスモニタ	2 台
ドラフト	18 台
グローブボックス	1 台
トリチウムガス動物実験フード [†]	1 台
ダストサンブラ	3 台
³ H/ ¹⁴ C 捕集装置	1 台

◆放射線分析・解析機器

ラジオクロマトイザ [†] (TLC アナライザ [†])	1 台
イメージアナライザ [†] (FLA-9500、他) [※]	2 台
メスハウアー分光分析装置	1 式

◆飼育・培養機器

動物用飼養ボックス	2 台
遠赤外線動物乾燥装置	1 台
光照射振とう培養機	1 台
クリーンベンチ	1 台
安全キャビネット	1 台
CO ₂ インキュベータ	1 台
恒温器	1 台
低温室	2 室

◆汎用研究機器

分光光度計	1 台
蛍光分光光度計	1 台
蒸留水製造装置	1 台
超純水製造装置	1 台
製氷機	1 台
オートクレーブ	1 台
超遠心機	1 台
高速冷却遠心機	1 台
低速冷却遠心機	1 台
微量高速冷却遠心機	11 台
ヒーティングブロック	11 台
恒温振とう水槽	11 台
低温恒温槽	1 台
小型恒温水槽	3 台
凍結乾燥機	1 台
送風定温乾燥器	1 台
定温恒温乾燥器	1 台
電気炉	1 台
小型低温インキュベータ	1 台
ハイブリタライゼーションインキュベータ	3 台
グラジエントサーマルサイクラー	3 台
ゲル乾燥器/水流式アスピレータ	2 台
小型アスピレータ	3 台
水流式アスピレータ	4 台
DCode 微生物群集解析システム	1 台
倒立位相差蛍光顕微鏡	1 台
ゲル撮影装置	1 台
高速液体クロマトグラフィー	2 台
ジェネティックアナライザ [†] (ABI-310)	1 台
二次元電気泳動装置	1 台
ICP 発光分光分析装置	1 台
GC-MS 分析装置	1 台
マグネティックスターラ	4 台
超低温フリーザ	3 台
電子天秤	3 台
電気泳動用パワーサプライ	6 台

[†]大学院リーディングプログラムによる導入を含む。

I-2. 教育研究活動

放射線を利用する者は、初めて放射線を扱う前に教育訓練を受講しなければならない。当部では学内の放射線業務従事者に対する教育訓練（日本語・英語）を開催する他、当施設の新規利用者を対象に放射線測定器（サーベイメータ）を用いた放射線測定の実習（教育訓練実習）を行っている。また学内の他 RI 施設の教育訓練の支援や学外の教育訓練の講師も担当している。この他に教育活動支援の一環として学生実習の支援やセミナーを開催し、また学外への啓発活動として一般向けの講習会の主催や講習会への講師の派遣も行っている。

【教育訓練および教育訓練実習】

令和3年度の教育訓練は新型コロナウイルス対策のため、対象者の多い継続教育訓練（日本語）については、広島大学オンライン学習システム Bb9 を用いて実施した。それ以外のものについては対面にて実施した。

<教育訓練>

4 / 9	第1回教育訓練	(新規登録者対象)	19名
4 / 13	第2回教育訓練	(新規登録者対象)	21名
4 / 14	第3回教育訓練	(新規登録者対象)	14名
4 / 19	第4回教育訓練	(新規登録者対象)	22名
4 / 21	第5回教育訓練	(新規登録者・外国人対象)	1名
4 / 22	第6回教育訓練	(新規登録者対象)	19名
4 / 23	第7回教育訓練	(継続登録者・外国人対象)	4名
5 / 11	第8回教育訓練	(新規登録者対象)	3名
6 / 16	第9回教育訓練	(新規登録者対象)	3名
7 / 16	第10回教育訓練	(新規登録者対象)	35名
8 / 3	第11回教育訓練	(新規登録者対象)	1名
9 / 14・15	第12回教育訓練	(新規登録者対象)	1名
10 / 19	第13回教育訓練	(新規登録者対象)	7名
10 / 25	第14回教育訓練	(新規登録者・外国人対象)	1名
1 / 14	第15回教育訓練	(新規登録者対象)	3名
	継続登録者対象（日本語）		201名

<教育訓練実習>

4 / 26	第1回教育訓練実習	3名
4 / 27	第2回教育訓練実習	4名
4 / 27	第3回教育訓練実習	3名
6 / 1	第4回教育訓練実習	2名
10 / 4	第5回教育訓練実習	1名

<RI教育訓練支援>

講師派遣（学内）

令和3年度は学内放射線施設への講師派遣は行っていない。

【理学部生物科学科 学生実験の支援】

当部では放射線利用に関する教育の一環として稲田を中心に理学部生物科学科三年生のRI実習の支援を行っている。令和3年度はコロナウィルス感染対策のため実習を2グループ

に分けて行った。開催状況は以下のとおり

7/21・28 R I 実習：(理学部生物科学三年生 学生実習)

計35名

【理学部化学科 学生実験の支援】

理学部化学科学生実験(化学実験Ⅰ・Ⅱ)の放射線計測実験を中島が担当し、当部のスタッフが一部支援をしている。また、松嶋は生物化学系の実験を担当している。本年度もコロナウィルス感染防止に努めて全実験を終了した。

【R I セミナー】

放射線に対する幅広い知識提供と研究・技術の情報交換を行い、有益な放射線利用の啓発を行うことで放射線の安全利用を促し、さらに様々な分野の研究における情報提供を行うことで、全学の研究支援と教育活動を推進することを目的とし、平成13年度より学内外の先生を講師として招き、全学を対象としたR I セミナーを開催している。令和3年度はコロナウィルスに対する対応により開催しなかった。

【三次被ばく医療推進事業への協力】

広島大学は、平成16年3月に、西日本ブロックの「地域の三次被ばく医療機関」に選定され、緊急被ばく医療推進センターが設置された。アイソトープ総合部のメンバーは平成17年度より広島大学緊急被ばく医療推進センターの協力者となり、毎年、防災訓練や講習会、医療訓練などに参加し、講演や技術指導を行っている。令和3年度の活動実績はない。

【理学部化学科新入生対象見学会】

理学部化学科では、新入生のオリエンテーションの一環として、新入生野外研修・見学会を行っている。当部では、この見学会に協力し、理学部化学科の新入生を対象とした見学会を行っている。令和3年度は4月10日に開催した。

【地域貢献事業】

平成19年度より地域貢献事業として、一般の方を対象に霧箱や放射線測定器を利用して宇宙線や身の回りの放射線を観測する実習「目で見る放射線実習」や大学祭において公開演示「霧箱で放射線・宇宙線を見てみよう」を開催している。令和3年度の開催状況は以下のとおりである。

1. 霧箱で放射線・宇宙線を見てみよう(広島大学大学祭)

開催日時：令和3年11月6日(土) 13:00~16:00

内容：霧箱による α 線、 β 線、宇宙線の観察。

身の回りの放射線の測定。ウランガラスの展示、解説・紹介用のポスターの展示

来場者数：46名(乳幼児は含まず)

共催：日本原子力学会中国・四国支部

【大学院リーディングプログラム機構フェニックスリーダー育成プログラム】

広島大学では、「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム ―放射線災害による人と社会と環境の破綻からの復興を担うグローバル人材育成―」が平成23年度、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された。本プログラムでは、放射線災害に適正に対応し、明確な理念の下で復興を指導できる判断力と行動力を有し、国際的に活動できるグローバルリーダー(フェニックスリーダー)を育成する。そして、放射線災害からの復興をけん引できる人材育成を通して、21世紀のモデルとなる安全・安心

の社会システムの確立に貢献する。当部の中島はこのプログラムの放射能環境保全コースのコースリーダーとなり、6人の学生を直接指導している。